

2. 都市交通の将来予測

- 平成元年から平成17年までの間に、福井都市圏の交通は大きく変わってきていることがわかりました。
- このような中で、今後の福井都市圏の交通について考えるため、パーソントリップ調査結果に基づいて都市交通の将来を予測しました。

1. 将来予測の条件設定

都市交通の将来予測は人口や交通条件の変化を考慮して行いました

- 総人口：平成32年(2020年)には平成17年の0.96倍に、平成42年(2030年)には0.90倍に減少すると想定。(図29)
- 高齢者：平成32年には高齢者の割合が30.5%に、平成42年には32.3%になり、高齢化がさらに続く想定。(図29)
- 自動車運転免許保有率：平成元年は49%、平成17年は65%だったが、平成32年には75%、平成42年には76%に上昇すると想定。
- 都市交通(道路)：現時点で整備が見込まれる計画道路が予測年次に完成した状況を想定。
- 都市交通(公共交通)：おおむね現状のサービス水準が確保された状況を想定。

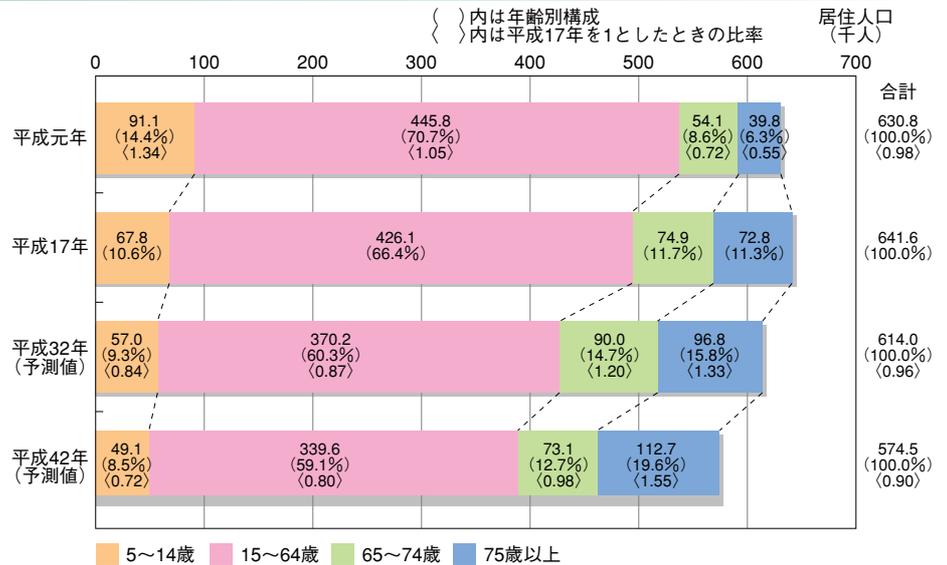


図29 年齢階層別居住人口の将来見通し

資料：国勢調査(平成元年、平成17年の人口)
資料：日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月推計 国立社会保障人口問題研究所)(平成32年、平成42年の人口)

2. 都市交通の将来予測

(1) 総トリップ数は減少が続く

- 総トリップ数は、人口の減少に伴い、平成32年には平成17年の0.97倍に、平成42年には0.90倍に減少する見込みです。(図30)

(2) 自動車による移動が8割を占めるにまで増加

- 自動車利用のトリップ数が総トリップ数に占める割合は8割を超えると見込まれます。(図30)
- 一方、鉄道や路線バスによるトリップ数は引き続き減少すると見込まれ、平成32年には、鉄道は約8割、路線バスは約7割に減少すると見込まれます。(図30)

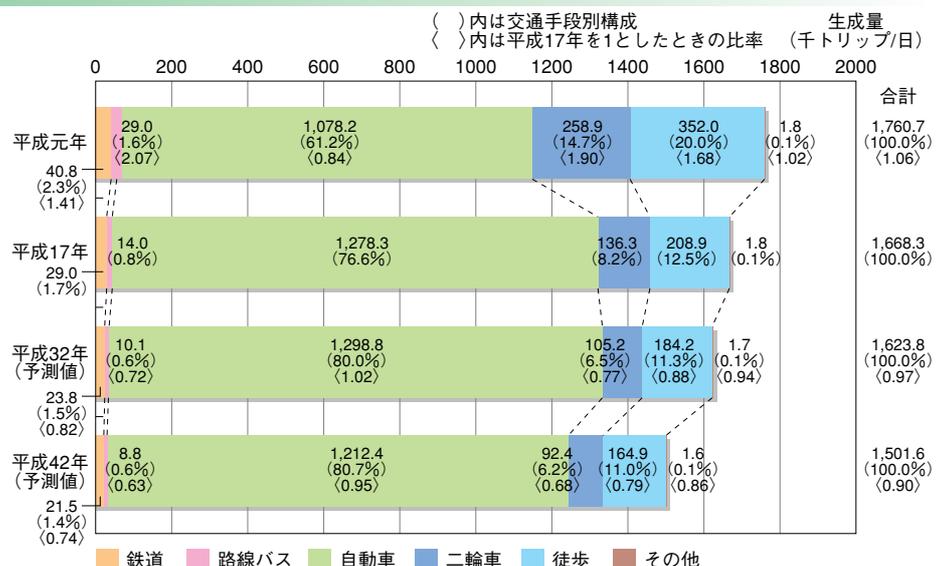


図30 代表交通手段別のトリップ数の将来見通し



(3) 短距離での自動車利用がさらに増加

- 自動車利用トリップを距離別にみると、特に2km未満の短距離トリップが増えると見込まれます。(図31)

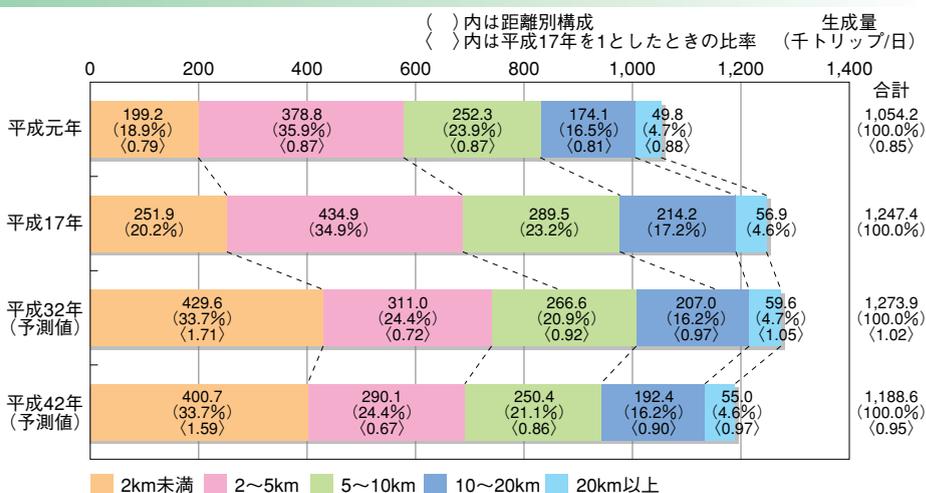


図31 距離別自動車トリップ数の将来見通し

(4) 高齢者の自動車利用が増加

- 高齢者のトリップ数は、平成32年には平成17年の1.49倍に増加すると見込まれます。(図32)
- 交通手段別にみると、自動車利用のトリップ数が大きく増加する傾向にあります。

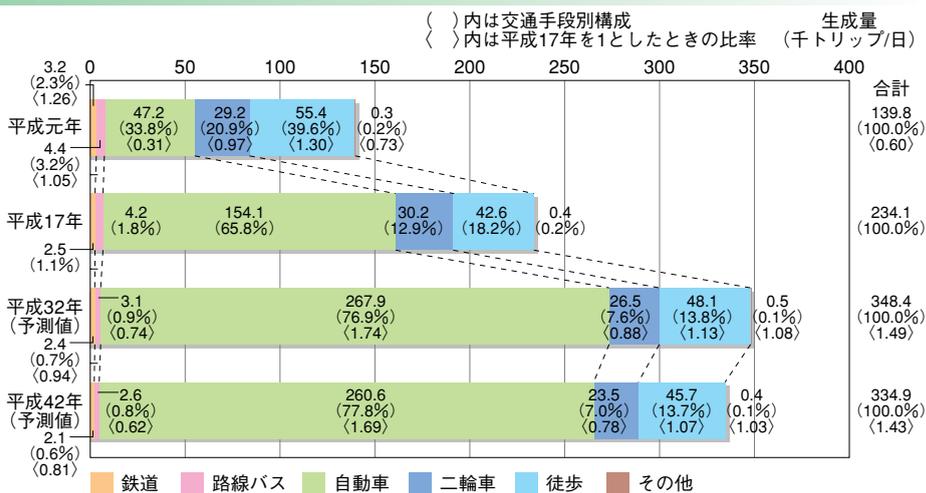


図32 高齢者トリップ数の将来見通し

(5) 現状のまま推移すると様々な面で悪くなる傾向

- いくつかの指標により、将来の状況を評価しました。
- 平成元年から平成17年にかけて各種の指標が悪化し、さらに平成42年にかけて悪化していくことが予測できます。(表1)

表1 現状および予測結果の評価

評価項目	評価指標	評価結果				(単位)
		平成元年	平成17年	平成32年 (予測値)	平成42年 (予測値)	
①自動車利用時の安全性の確保	高齢者の自動車による交通事故件数	131 (0.22)	583 (1.00)	885 (1.52)	880 (1.51)	件/年
②地球環境への負荷軽減	CO ₂ 排出量	1.041 (0.68)	1.524 (1.00)	1.402 (0.92)	1.305 (0.86)	t-CO ₂ /日
③省エネルギー	単位距離あたりの輸送エネルギー消費量	1.679 (0.70)	2.401 (1.00)	2.537 (1.06)	2,546 (1.06)	KJ/km
④健康的なライフスタイル	一人一日あたりの移動による消費カロリー	62.3 (1.59)	39.1 (1.00)	34.7 (0.89)	33.0 (0.84)	kcal/日
⑤都心部のにぎわいの創出	都心部着トリップ数	324 (1.31)	247 (1.00)	234 (0.95)	215 (0.87)	千トリップ/日
⑥公共交通の有効利用	鉄道利用トリップ数	40.8 (1.41)	29.0 (1.00)	23.8 (0.82)	21.5 (0.74)	千トリップ/日
	バス利用トリップ数	29.0 (2.07)	14.0 (1.00)	10.1 (0.72)	8.8 (0.63)	千トリップ/日

〈 〉内は平成17年を1としたときの比率
最もよい評価値を赤色、最も悪い評価値を水色としている